

協議会と阪神・淡路大震災

元金沢大学教授 早川純一郎

平成7年1月17日の早朝に起きた、「阪神・淡路大震災」は多くの人命を奪い各方面に多大の損害をあたえましたが、神戸大の動物実験施設にも甚大な被害を与えました。

前年から協議会の会校長をお引き受けしていた金沢大の私には震災への協議会の対応は忘れられないものであります。

17日から被害状況の問い合わせやら、文部省（現文部科学省）との連絡におわれていましたが、19日には神戸大の塩見先生から被害の状況をお知らせ頂きました。滋賀医大の鳥居先生からは神戸に救援に向うという連絡をうけましたが、被害と混乱が大きく、その日は大学まで到着し引き返されました。数日後に再度、鳥居先生が救援に向われ、それに京大の芹川先生と技官の方が合流され、続いて大阪大からも黒沢先生と技官の方が救援に向われました。

今思い返すとこの救援活動では会長校としての役割を果たさずひたすら援助のお申し出を頼り、一方ではかなり独断でことを運んだようで当時の施設の関係各位にご迷惑をおかけしたのではないかと反省しております。

3月の始めには神戸大の施設から「阪神大震災による神戸大学医学部附属動物実験施設の被害状況、復旧状況および今後の課題について」というカラー写真付きの報告を頂きましたが、未曾有の災害からの復旧の中これだけの報告書を纏めら

れた塩見先生を始めとする関係者の努力に感銘したことを思い出します。

神戸大では2月の終わりにすでに「動物実験施設における地震等災害発生時の対応マニュアル」を作成しておられ、文部省からの要請もあり、このマニュアルを附属資料として協議会としての「大学動物実験施設における震災等への対応について」が作成されました。

震災に関連した協議会の活動はその年に山形大で開催された第21回国立大学動物実験施設協議会の総会資料の中はかなり詳細に記録してありますが、今読み返してみますと、どうでもよいことですが、気になること、全く忘れていたことがあります。

幹事会報告のメモ風の記載によると鳥居先生から20日に途中で引き返され「月曜日に再度神戸に向かいたい」と連絡をうけたことになっていますが、22日の項に「無事到着したとの連絡があった」とあります。震災の起きた17日は火曜日ですので、22日は日曜日ということになります。記載の間違いか、何かの事情で一日早く出発されたのか。また、この20日の項の記載にはまったく意味不明な文があります。あいまいになる記憶を補う文書記録は正確でなければといまさらながら反省しています。一方、申しわけないことに広島大の古川先生や岡山大の倉林先生にも神戸までお出かけ願っていることを、これを読むまで全く忘れておりました。先にお名前を挙げた先生方とともにその折のご尽力にあらためて御礼申し上げます。

あれからすでに9年が過ぎました。天災が来ないように貴重な経験がいつまでも忘れられないよう願っております。